

## 2025年12月実績概要（メモ）

（2026. 1. 22）

定修も終盤となり、誘導品類の生産は前月に対し増加が見られるも、前年の水準には多くが及ばず。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 458,000トン

前月比 +1.7% (+7,700トン)

前年同月比 ▲1.9% (▲8,700トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3 %	—
定修要因等	—	—
能力増減	—	—
稼働率変動	▲ 1.6 %	▲ 1.9 %
生産増減率	+ 1.7 %	▲ 1.9 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月78.4%\* → 当月77.1% ← 前年同月78.6%

定修プラント：前月 なし → 当月 なし ← 前年同月 なし

2025暦年生産量 5,139.0千トン 前年比 +3.2%

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の増加や定修も終盤となり、LDPE、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、AN、SBR、ベンゼン、トルエンなどの12品目がプラス。HDPE、EO、EGなどの5品目は稼働率要因等からマイナスとなった。

前年比では、主に稼働率要因から、HDPE、SM、EO、EG、AN、SBRなどの15品目がマイナス。PPなどの2品目のみがプラスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数増加や定修規模差からLDPE、PSはプラス、HDPE、PPは稼働率要因からマイナスとなった。

前年比は、稼働率要因等から、LDPE、HDPE、PSはマイナス。PPのみはプラスとなった。

ロ) 国内出荷

消費のマインドは、持ち直しの動きが続くも、暮らし向きや耐久消費財の購入の面で前月に対して弱い動きが見られている。国内の生産活動は、12月の予測では電気・情報通信機械、汎用・業務機械等の産業で上向きの予測が出されているが、トレンドとしては、前月に対して弱気と見る面が多くなっている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、ユーザー側の稼働日数との関係もあり、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。前年比でも4樹脂揃ってマイナスとなった。

分野別の出荷は、前年比で、フィルム等の包装材分野は、LDPE、HDPE、PP、PSのいずれもマイナス。

包材以外の出荷分野では、LDPEの加工紙分野、電線被覆分野がほぼ前年並み。HDPEはほとんどの出荷がマイナス。PPは射出成形分野で伸びが見られたが、そのほかの分野ではマイナスとなった。PSは雑貨・産業分野のみが増加した。

ハ) 輸出

アジア域内の相場は、中国のデフレ圧力の高まりもあり、消費者向けの包材、工業用品向けとも一段と冷え込みを見せている。比較上、前月比はLDPE、HDPE、PPはプラスとなったが、前年比はLDPE、HDPE、PSでマイナス。PPのみはプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PPで増加、PSはやや減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE、PSは低下し、PPは前月並みとなった。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PPはやや高め、PSは適正水準近辺となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		11月末	12月末
LDPE	+15,700	3.8	3.7
HDPE	+2,600	4.5	4.3
P P	+18,100	3.4	3.4
P S	▲1,000	2.1	2.0

前月からの修正を\*で付記  
以上